

# 大津歴博 だより

法然上人没後800年記念・親鸞聖人没後750年記念企画展

## 阿弥陀さま — 極楽浄土への誓い —

平成24(2012)年10月13日(土)から11月25日(日)まで



絹本着色観経变相図 鎌倉時代 乗念寺(浄土宗)蔵



## 阿弥陀さま 一極楽浄土への誓い

### この秋、再び大津市歴史博物館で たくさんの仏像とお出合いができます。

2012年は、大津の比叡山で修行され、浄土宗を開宗された法然上人が1212年にお亡くなりになって800年という節目の年です。また、その弟子で同じく比叡山で修行された浄土真宗の祖、親鸞聖人も1262年に没したため没後750年という年にあたります。

大津市歴史博物館では、浄土宗滋賀教区大津組・湖南組のご協力を得て、大津市内の浄土宗寺院のご宝物の調査と展示をさせていただくことになりました。数が多いのでいまだすべてをまわりきれていませんが、それでも多くの新発見がありました。今回の展覧会ではその成果をご覧いただけることとなります。応仁の乱時、京都の知恩院が疎開してできた伊香立の新知恩院からも多くの宝物を展示します。なかでも、ご本尊である木造法然上人立像の精緻な表現は、小さいながらも写実的で見てたえがあります。大津百町の華階寺、幻案寺、乗念寺、西福寺、伝光院などからも、普段お目にかかれない宝物が並びます。安養寺（木戸）の阿弥陀来迎図は頭部に植毛している珍しい絵ですが、今回修復と復元模写を行いました。並べて展示することで、当初の姿を知ることができます。浄土宗西山禅林寺派の寺院にも人知れず古像が伝来していました。念仏寺には新出の10世紀の観音像が伝わっており、浄国寺の鎌倉後期院派作の可能性のある阿弥陀三尊像は、金銅製光背をみごとに具備する優品です。九品寺の本尊は鎌倉時代の説法印の阿弥陀如来坐像です。また、浄土真宗寺院からも、はじめて展示させていただける阿弥陀如来像をはじめとした宝物を並べさせていただきます。歴博のお隣、園城寺（三井寺）は、八世の蓮如上人ゆかりの場所としても著名で、それにより出来た近松別院や、堅田源兵衛伝説で著名な等正寺の阿弥陀如来像も並びます。本福寺や正源寺の宝物も貴重です。

さらに、母山である比叡山延暦寺にも多くの宝物があるのはいまでもありません。法然上人が修行した西塔黒谷の青龍寺伝来阿弥陀如来像や、無動寺谷の大乗院安置「蕎麦喰い親鸞像」などは、両上人の活動を髣髴させます。山麓の坂本・滋賀院から今回、初公開となる観経变相図と善導大師像が出陣です。聖衆来迎寺の鎌倉時代の精巧な木造善導大師立像も注目です。天台の安楽律流寺院、世尊寺には、平安後期の阿弥陀如来立像と鎌倉中期の観音・勢至像が見つかりました。後者は、鎌倉時代の院派仏師の作と思われ珍しいものです。そして、天台真盛宗寺院も豊かです。西教寺本尊の光背化仏は平安時代・院政期の作。さらに塔頭・徳乗坊の阿弥陀像も鎌倉の秀麗な作。西勝寺や盛安寺、上品寺、西福寺、妙盛寺など、鎌倉仏のオンパレードです。また、昨年夏に西教寺大本坊から、快慶の一番弟子「行快」の墨書銘が見つかった阿弥陀三尊像にちなみ、快慶の一番弟子・行快一派の阿弥陀像も並びます。今春に当館の調査で見つかった法橋時代の長浜市・浄信寺像をはじめとして、西岸寺像や亀山市・遍照寺像など、行快工房の作風を伺うことができます。

この展示では、100件を超える文化財が並びますが、重要文化財や県・市指定といった指定文化財は少ししか展示しません。そのような文化財はおそらく別の機会、施設で拝見することができるでしょう。一方、未指定作品の優品はほとんど知られていないため、なかなか展示されることがありません。それらを紹介するのが当館の役目なのです。また、初公開のみならず、当館でしか過去に展示されていない今回2回目という像もたくさんあります。まさに当館でしか会えない仏さまをぜひともご堪能ください。

※展示替にご注意下さい。





木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
西教寺徳乗坊（天台真盛宗）蔵



木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
光明寺（浄土宗）蔵 ※修理前



木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
等正寺（真宗大谷派）蔵



木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
西福寺（天台真盛宗）蔵



木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
西念寺（浄土宗）蔵



木造勢至菩薩立像 鎌倉時代  
世尊寺（天台宗）蔵

浄土教の中心地として知られた大津には、浄土系の各宗派の寺院が多数あります。その多くに阿弥陀如来像を安置していますが、今回調査を進めたところ、今まで知られていなかった平安や鎌倉時代の像がまだまだたくさん現存していることがわかりました。お寺の方もそれに気づかずに毎日拜んでいるのです。普通にお祀りされている仏さまが実は鎌倉時代だなんて、いつもながらすごい話です。

新たに見つけた仏さまは、ご本尊である場合が多いためすべてを展示できるわけではありません。それでも今回、ご所蔵者の格別なご協力によりたくさんの阿弥陀さまが展示されます。このページに挙げた仏様はその一部ですが、すべて初出陳になります。文化財的にみて、眠りから覚めた仏さま。大津のお寺は観光寺院ではありませんので基本的に拝観は出来ず、今回を逃すとこの後いつお出会い出来るかわからないものばかり。ぜひ博物館で御縁を結んでください。



## 第100回 ミニ企画展 縄文ムラの景観と風習 —穴太遺跡と滋賀里遺跡から—

会期 ■ 平成24年10月2日(火) → 11月25日(日)

JR唐崎駅のすぐ北、穴太遺跡の地表下5mの深いところで縄文時代後期末葉（約3200年前）の「穴太ムラ」が発見されています。幅5mの河川本流やそれに合流する支流、4棟の円形・方形の竪穴住居、祭祀場とみられる配石遺構、ドングリやクルミなどを詰めた貯蔵穴、男女の生殖器形木製品などが見つかっています。またイチイガシなどアカガシ亜属を主体とした落葉広葉樹や針葉樹が埋没した状態で確認され、当時の人々は湖岸近くまで繁茂した自然環境のなかで山や湖・川の幸を受け、その山や川に祈りを捧げ暮らしていたようです。

穴太遺跡の南1.5kmの滋賀里遺跡では晩期（約3000年前）の墓地と貝塚が見つかっています。墓域は集団墓地の様相を呈し、地面に穴を掘って直接遺骸を埋葬した土壙81基と土器棺25基が検出されました。土壙内の人骨は仰向けもしくは横に臥し、手足を折り曲げた状態で埋葬され（屈葬）、土器棺には小児用や成人の再埋葬のものもみられました。

本展では、穴太・滋賀里遺跡の遺構や出土品から縄文ムラの景観と人々の風習を紹介します。



穴太ムラのイチイガシの埋没林（穴太遺跡）

## 第101回 ミニ企画展 趣味家謹製!! 巳年の年賀状

会期 ■ 平成24年11月27日(火) → 平成25年1月14日(月・祝)

年末年始恒例のミニ企画展として、本年も木版年賀状展を開催します。今年は、昭和4年（1929）と昭和16年（1941）のいずれも来年の干支である巳年の年賀状です。展示作品は単なる新年の挨拶状ではなく、当時の趣味家（コレクター）たちが、交換会と称するコンテストを催し、洒落や見立ての面白さや図柄の美しさにこだわった、すこし変わったものばかりです。趣向を凝らした年賀状の数々は、みなさんの年賀状作りの参考になること請け合いです。



すべて米谷コレクション（本館蔵）

会期 ■ 平成25年1月16日(水) → 2月24日(日)



紙本著色降魔大師縁起絵巻 江戸時代 観明院蔵

天台宗総本山、比叡山延暦寺は、我が国最大の寺院の一つとして実に多くの宝物を所蔵しています。なかでも仏教美術はその中心で、重要文化財など指定されているものも多くありますが、未指定ながら優品もたくさん伝来しています。

今回は今まであまり紹介されることのなかった、日本仏教の母山と呼ばれる比叡山伝来の未指定の仏画を中心に紹介し、延暦寺の歴史の奥深さをみていきます。

## 収蔵品紹介

### 伝紅染寺跡発見の尾張産陶器壺

天台宗の祖、伝教大師最澄は近江国滋賀郡出身です。市内坂本には、最澄誕生の伝承地が2ヶ所あり、そのうちのひとつが「紅染寺」です。この寺跡は大津市坂本七丁目字紅染寺に所在し、JR湖西線比叡山坂本駅の北方約750mの丘陵地付近のことです。現在でも、丘陵地頂部の平坦地に文政10年建立の「南無阿弥陀佛」と刻まれた石碑を中心に多くの石仏が安置され、毎年8月18日には延暦寺によって供養されています。今回紹介する陶器の壺は、この小高い丘の南西斜面の畑地において、1988（昭和63）年以前に不時発見され、坂本村役場から坂本支所を経て当館に所蔵されたものです。

この壺は口頸部を欠失している以外は良好な状態を保っており、残存高23.2cm、肩部最大径19.2cm、頸部幅7.7cmを測ります。壺の上半肩部に最大径をもち、肩部からなだらかに径を狭めながら底部にいたり、高さ0.9～1.3cmの高台こうだいが取り付けます。頸部下半と肩部にそれぞれ2条の沈線ちんせんがみられます。色調は灰黄茶褐色で、頸部から肩部にかけて淡い緑色を呈した自然釉が付着しています。この壺は胎土・色調等から12世紀代の尾張産陶器壺とみられ、発見場所の地形のようすから蔵骨器として使用されたものと考えられます。

(吉水眞彦)







木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
西方寺（浄土宗）蔵 ※修理前



頭部解体状況と納入品  
（宝珠 中央下の球形のもの）



木造阿弥陀如来立像 鎌倉時代  
長浜市・浄信寺（時宗）蔵



納入品「結縁交名」（開封前）

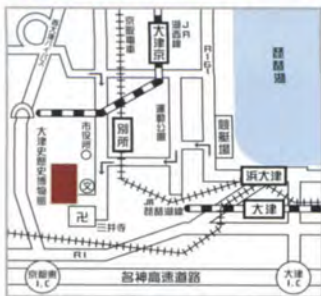


納入品「結縁交名」（開封後・部分）

今回の展覧会開催にあたり、修復を伴う調査も行われ、いくつかの新発見がありました。まず、西方寺の阿弥陀如来立像の頭部の前面材を外すと、ちょうど頭の脳のあたりに蓋状のものがありません。そしてその中に小孔があり、ちょうどはまるように銅製鍍銀の珠が入っていました。珠は底面が平滑なほか、ほぼ球形をしており、宝珠のような形です。頭の中に金属製の宝珠を入れるのは珍しい例です。次に、浄信寺の阿弥陀如来立像はこの春確認されたもので、足柄に「■■（巧匠？）法橋行」と墨書銘があり、作風を含めて快慶の一番弟子、行快の法橋時代の作と考えられます。さらに像内内割の足元には卷子状のものが二巻納入されており、今回取り出されました。開封作業と内容の分析はまだ途中ですが、「南無阿弥陀仏 一万遍 為平能弘」などといった数千人もの結縁交名が記され、多数の人々の結縁で造像されたことがわかります。また、光明寺の阿弥陀如来立像の胎内にも「僧盛慶」「僧実慶」などといった墨書銘が出ており、これらの人名についての謎の解明はこれからです。

展覧会ではこれらの納入品を展示しますが、展示後に像内に戻す可能性があり、お披露目は今回が最初で最後かもしれません。お見逃しなく。

## ご利用案内



- 交通機関
  - ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
  - ・JR 大津駅 徒歩 15分
  - ・JR 大津駅、バス 10分 別所下車
- 駐車場 約70台（無料）

### ■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	210円	160円
高校生・大学生	150円	120円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日に限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

### ■開館時間

午前9時～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

### ■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）  
 祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）  
 年末年始（12月27日～1月5日）  
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

### —— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



## 大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号  
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.88 平成24年9月10日